

1994



FACULTY OF HUMANITIES
Department of Humanities

FACULTY OF ART
Department of Fine Arts

Oil Painting
Japanese Painting
Sculpture
Printmaking
Ceramics

Department of Design
Visual Communication Design
Textile Design
Cartoon
Architecture

Graduate School of Humanities
Graduate School of Art

人文学部 美術学部
大学院 人文学研究科 / 美術研究科

京都精華大学

Contents

学部学科構成 沿革	2
人文学部	3
人文学部概説	4
カリキュラム・資格課程	6
教員による学部紹介	8
言葉と意味	8
科学と人間	10
日本の歴史文化	12
民族の文化	14
都市の文化	16
フィールドワーク	18
アメリカ・プログラム	20
タイ・プログラム	22
オーストラリア・プログラム	24
国内プログラム	26
人文学部教員組織	28
美術学部	29
美術学部概説 カリキュラム	30
教員による学部紹介	32
洋画	32
日本画	34
立体造形	36
版画	38
陶芸	40
ビジュアルコミュニケーションデザイン	42
テキスタイルデザイン	44
マンガ	46
建築	48
学生作品紹介 造形学科	50
学生作品紹介 デザイン学科	52
学外実習	54
美術学部教員組織	56
キャンパス案内	58
大学院	60
人文学研究科	60
美術研究科	61
学長さっくばらん	62
学外交流	62
学生生活① アセンブリー・アワー サークル活動	64
学生生活② 大学祭 イベント	66
学生生活③ 各種制度	68
卒業後の進路 人文学部	70
卒業後の進路 美術学部	71
大学見学 オープンキャンパス	72

学部学科構成

人文学部

人文学科 (入学定員三〇〇)

美術学部

造形学科 (入学定員一五〇)

洋画

日本画

立体造形

版画

陶芸

デザイン学科 (入学定員一五〇)

ビジュアルコミュニケーションデザイン

テキスタイルデザイン

マンガ

建築

大学院

人文学研究科 (入学定員一〇)

人文学専攻

美術研究科 (入学定員二〇)

造形専攻

デザイン専攻

沿革

一九六八

京都精華短期大学を開学
英語英文科 (英米文学コース・
秘書コース・貿易英語コース・
ガイドコース)

美術科 (絵画コース・デザイン
コース)

アセンブリー・アワー始まる
The Kyoto Seika English Papers
発刊

一九七〇

美術科に染織コース増設
『木野通信』発刊
『木野評論』発刊

一九七二

英語英文科に国際文化コース増
設
美術科に立体造形コース、デザ
インコースにマンガクラス増設

一九七五

伊谷記念朽木学舎オープン
The Kyoto Seika English Papers
を Kyoto Review に改称

一九七九

京都精華大学美術学部開設
造形学科 (洋画・日本画・立体
造形)
デザイン学科 (デザイン・染織・
マンガ)

京都精華短期大学英語英文科は
京都精華大学短期大学部英語英
文科に改称

一九八二

京都精華短期大学美術科を廃止

一九八五

丹後学舎オープン

一九八六

美術学部造形学科に版画専攻と
陶芸専攻、同デザイン学科に建
築専攻を増設

一九八九

人文学部開設

一九九一

京都精華大学短期大学部英語英
文科を廃止

大学院美術研究科 (造形・デザ
イン) を開設

一九九三

大学院人文学研究科を開設

人間は、さしずすするよりは勝手にやらせたほうが、
ずつとうまくやります。



学長 柴谷篤弘

私が日本に帰ってきたのは六年まえで、それまでの二十年ほどは日本にいなかったものだから、なにが日本での常識か知らないことがよくあります。二十年の差はものすごく大きい。その間に日本批判の決定的な視点を身につけるようになった。

日本は非常に傲慢になった、個人も全体も。よそに犠牲を強いながら日本の価値を押しつけているという事実が見えていない。よその国と日本の視点が非常にずれてきているから、世界の孤児になる可能性は大きいと思います。日本の教育というのも、よその国との経済競争に勝つにはどうしたらいいかという設計があつて、そのとおり成功したわけでは。しかし、致命的に具合の悪いことが進行してしまつた。そのひとつの典型が偏差値教育だし、判で押したような同一性でしょう。学生同志で、「先輩」「後輩」という言葉が使われるのもますますひどくなつていくでしょう。対等の独立性をもつのではなく、そのなかにいけば安心だといふだけの関係性です。それが日本の学生の特徴になつていく。

大学そのものも、新しい大学文化をつ

くらなければならぬ。大学間でも協力しようとしているんですが、現実となるとむずかしいですね。大学が知性の場なら内部から変わらなければいけないのに、どうやら外圧でいやおうなしに変わることになる。明治維新と、敗戦と、そして今度また非常に大きな外圧が来ようとしているというわけです。

世界のパラダイムは競争から共存のほうに変わらなければならぬ、というのが京都精華大学全体の意識だということはいえます。しかしこれは、安定して調和して獲得できるというものではありません。絶えず破壊と創造が繰り返さなくてはならぬんです。近代を乗り越えねばならないという要請が、環境問題、あるいは第三世界と第一世界のあいだの問題として現にある。しかし大学は、これまでの近代の知の伝統をすてることはできない。あるいは、日本の大学に共通する特殊事情も改めることはむづかしい。これはかなり矛盾した状況のように見えます。

ただ、だれかに縛られてするのはなく、自分でやっていくのだという意識はおのの教員が持ちつづけてきたからでしょう。それが何に表れているかというと、学生にもやりたいようにやらせるという気風です。学外からの訪問者に

くと、学生の雰囲気ちがう、姿勢や行動がちよつとちがうといひます。微妙ですが、テンションがない、かといってだらけているわけではない。学生が自発的になにかをしようとしている気分があるという。実際、討論の仕方とか、困難を乗り越えていく方法とか、勝手にやらせたらずいぶんうまくやります。

人文学部ははじめて卒業生をだしたのですが、必修ではない卒業論文をほとんどの人が書いてしまつた。それもオリジナルで立派なものがたくさんあります。型にはまらない自主性の高いそういう学生がそだつてきた。フィールド・ワークもいいチャンスです。気候風土がちがうだけでも相当の効果がある。知らない人のなかにはいる不安を克服しなければならぬ。徒党を組めないから、自分自身の判断でやる。自分の考えで世界の人と個人でわたりあえる人を輩出させられたいと思ひます。

文明はたぶん減じます。しかし、そんなことは大きな問題ではない。われわれが自由にできるのは現在だけです。過去も未来も自由になりません。できることは、現在を生き延びるのに値する社会になるよう努力することしかない。現在の一点にかかると。

学外交流

人文学部にはフィールドワーク、美術学部には学外実習がありますが、学外との交流プログラムはこれだけではありません。やる気さえあれば、外の世界への道はいつでも開かれています。

■サマープログラム（美術学部）

アメリカとオーストラリアにあるふたつの提携大学のワークショップに、夏休みを利用して参加する約三週間のプログラム。

アメリカのミシガン州立大学アン Arbor 校との国際教育交換プログラムでは、毎年交互に研修学生を派遣する予定です。一昨年は三十名が渡米し、彫金・絵画・素描・テキスタイルの五コースのなかから希望の実習を受けました。国際的に著名な専門家が担当するこれらの授業は、世界のアートの最前線に触れる貴重な機会です。

今年度より新しく発足するオーストラリア国立大学キャンベラ美術校でのグループ研修はテキスタイル・版画・陶芸・ガラス工芸のコースを設定する予定です。両コースとも希望者が定員になり次第締め切ります。

■交換留学（人文学部・美術学部）

提携大学と同数の学生を交換する留学制度です。人文学部はアメリカのアンティオク大学とオーストラリアのアデレード大学、美術学部はサマー・プログラムと同じ二校が留学先となります。留学期間は一学期、一年のどちらかを選択、留学先で取得した単位は京都精華大学の単位として認められます。留学中の学費は本学に納入し、留学先大学での学費は全額免除になります。

■教員交換・研究員交換

学生の留学プログラムの他にも教員や研究員の交

換制度があります。教員は実際に授業を担当。研究員は授業を担当しませんが、キャンパスを拠点に研究、制作を行います。学生は教員・研究員を通して外国の文化や芸術に触れ、違った視点からのアドバイスを受けることができます。

■国内留学（人文学部）

国内留学先は、旭川大学経済学部と札幌大学外国語学部と沖縄大学法経学部。キャンパスから大雪連峰を望める旭川大学では、大自然をからだで感じながら人間と社会のメカニズムを解析して行く経済学を学びます。北の国際都市・札幌にある札幌大学はスケールの大きな大学、北海道の歴史・社会などが学べます。一方、日本の最南端に位置する沖縄大学では、沖縄独自の歴史・文化・言語・社会を学ぶ「沖縄研究」をはじめとする沖縄大学にしかない授業が受けられます。

二年生・三年生が対象で、四月から一年間、特別聴講生として三十単位までの受講ができ、留学先で取得した単位は京都精華大学の卒業単位として認められます。各大学五名まで。学費は京都精華大学に納入し、留学先の聴講料は無料。書類選考と面接があります。

■海外留学を志す学生をバックアップ 国際交流課 国際交流課の仕事は、新しい提携大学を探したり交渉を進めて国際交流の場をさらに広げること。もうひとつは海外留学を志す学生の相談にのることです。交換留学やグループ研修のシステムや手続き、あるいは留学準備金などについてアドバイスするほか、留学先の資料も揃えていて閲覧できるようにしています。

国際交流プログラム以外の個人留学についても情報提供し、できる限りバックアップしています。また、京都精華大学で受け入れている外国人留学生へのインフォメーションサービスも行っています。